

児童発達支援・放課後等デイサービス

自己評価および保護者評価 総括

2026 年度 多機能事業所 みやのだい SEEDS

1. はじめに

この報告書は、当事業所「みやのだい SEEDS」が実施した自己評価および保護者評価の結果をまとめたものです。今回の評価では、各項目を所定の評価基準に基づいて分析いたしました。

【評価の評価基準】

- ・ 10 点：とても思う / よくできている
- ・ 5 点：思う / できている
- ・ 0 点：どちらともいえない / 普通
- ・ -5 点：思わない / あまりできていない
- ・ -10 点：全く思わない / まったくできていない

なお、職員自己評価は、児童発達支援・放課後等デイサービスの両部門を横断して担当する職員が一体的に回答しています。

2. 児童発達支援 保護者評価結果の概要

対象保護者様：7 名全員にご回答いただきました（回答率：100%）

昨年度の回答率 85.7%（7 名中 6 名）から全員回答へと向上しました。児童発達支援の保護者評価では、全体を通じて引き続き高い満足度をいただいております。特に「職員から共感的に支援をされているか」「こどもは安心感をもって通所しているか」「こどもは通所を楽しみにしているか」の各項目では、回答者全員から「とても思う」との評価をいただきました。

保護者様からの主なご意見と当事業所の対応：

■ 職員体制・連携について

「母体となるこども園も手厚い上に、児発との連携も取られており、働く先生方にとっても手厚い環境」とのご評価をいただきました。引き続き職員間の連携を深め、安心して継続的な支援が受けられる体制を維持してまいります。法人としても、職員が長く喜びをもって働き続けられる職場環境の向上を意識してまいります。

■ 施設環境について

「我が子には申し分ないが、肢体不自由のお子さんのためにバリアフリーな空間になれば尚理想的」とのご意見をいただきました。一軒家という施設の特性上、構造的な制約はありますが、利用児童の状況に合わせてできる限りのバリアフリー化に取り組んでまいります。

■ 支援の質・個別対応について

「管理責任者の先生を筆頭に、方向性を統一しつつ先生方の個性も活かされた人対人としての関わりが、連絡帳を通じてよく伝わってくる」とのご意見をいただきました。職員間で支援方針を共有しながら、一人ひとりに寄り添った支援を継続してまいります。

■ 家族支援・保護者交流の機会について

家族支援プログラムや保護者同士の交流機会に関する項目では総合点 6.4 点と、他項目と比較して改善の余地が見られました。ご意見の中には「父親との接点を取りにくい」という声もあり、平日参加が難しい保護者の方へのアプローチが課題として示されました。今後も土曜日イベントや年 3 回の家族イベントを通じてご家族全員が参加しやすい機会を充実させるとともに、特にお父様同士が交流できる形を模索してまいります。

■ 地域交流・外部との連携について

「拠点の利用は少ないが、発信される内容を見て工夫されている様子が伝わる」
「園の中での交流が強くなるのはある程度仕方がない」とのご意見をいただきました。昨年度より子ども食堂を開始し、今年度は地域の方や幼稚園との合同土曜イベントの開催にもつながっています。今後も地域とのつながりを大切にしながら、交流機会の拡充に取り組んでまいります。

■ 幼稚園・法人内連携について

「同じ法人下という強みは感じるが、園担任からのフィードバックをいただけると連携をより感じられる」とのご要望をいただきました。クラス運営を中心とした担任の役割上、個別フィードバックが難しい場合もありますが、だからこそ SEEDS が橋渡し役として園と事業所の情報共有を進め、ご家庭へ必要な情報をお伝えできるよう努めてまいります。

3. 放課後等デイサービス 保護者評価結果の概要

対象保護者様：10 名中 8 名にご回答いただきました（回答率：80%）

昨年度の回答率 50%（2 名中 1 名）から大幅に向上し、より実態を反映した評価結果を得ることができました。全 29 項目のうち、地域交流の機会（項目 11：8.6 点）・家族支援プログラム（項目 14：8.8 点）・面談支援（項目 16：8.8 点）・保護者同士の交流機会（項目 18：8.8 点）・事故発生時の対応説明（項目 26：8.8 点）を除く全項目で満点（10 点）の評価をいただきました。

「職員から共感的に支援をされているか」「こどもは安心感をもって通所しているか」「こどもは通所を楽しみにしているか」「事業所の支援に満足しているか」の満足度項目は全て満点評価をいただいております、利用者の皆様からの信頼をいただいていることを実感しております。

相対的に評価が低かった地域交流・家族支援プログラムの各項目については、今後も継続して取り組みを充実させてまいります。

4. 職員自己評価結果の概要

評価実施職員：7名（児童発達支援・放課後等デイサービス両部門を一体的に評価）

職員自己評価では、活動プログラムの立案・固定化防止・自己選択支援・記録の徹底・苦情対応体制などの項目で高い評価が見られ、日々の支援に対する高い意識と専門性が示されました。一方、以下の課題についても率直な自己評価がなされました。

■ バリアフリー・環境構造化（項目3：平均3.6点）

職員間で評価にばらつきがあり、マイナス評価も含まれました。保護者評価では「わかりやすい」との評価をいただいている一方、職員は専門職の視点から理想的な環境整備の必要性を強く認識しています。施設の構造的制約の中で、利用児童の実態に即した継続的な改善を行ってまいります。

■ 第三者による外部評価（項目9：平均3.6点）

現時点で第三者外部評価は実施できていない状況です。外部の客観的視点を取り入れた評価の機会確保は引き続き課題として認識しており、今後の実施に向けた体制整備に取り組んでまいります。

■ 地域連携・交流機会（項目31～33：平均2.9～3.6点）

児童発達支援センターとの連携、放課後児童クラブ・児童館との交流、自立支援協議会への参加などの項目で職員間の評価のばらつきが大きく、状況の把握や取り組み状況に差があることが明らかになりました。昨年度より子ども食堂の運営を開始し、地域・幼稚園との合同イベント開催につながっています。また令和8年7月より自立支援協議会（運営委員会）の運営に携わる予定であり、今後さらに地域連携の実績を積み重ねてまいります。

■ 就学前施設・移行支援に関する情報共有（項目29・30：平均2.9～3.6点）

就学前に利用していた施設との情報共有や、学校卒業後の障害福祉サービス事業所等への移行支援に関する項目が低い評価となりました。これは対象となるこどもの状況によって職員の関わりに差が生じるためであり、一概に体制が整っていないとは言えない面もあります。ただし、法人全体の合同会議は回数こそ限られていますが、その機会を活用した情報共有を継続・充実させることで、部門横断での共通認識の形成に努めてまいります。

5. 保護者評価と職員評価の比較分析

今年度は放課後等デイサービスの保護者評価回答者数が昨年の1名から8名へと大幅に増加し、より信頼性の高い比較が可能となりました。全体として保護者評価は非常に高い水準を維持しており、職員の自己評価との間にいくつかの認識差が見られました。

■ 施設環境（バリアフリー・構造化）

保護者評価では「こどもにとっては分かりやすい」との評価がある一方、職員自己評価では平均3.6点と低く、専門職としての理想とのギャップが見られます。引き続き安全性と利便性を両立しながら、利用児童の実態に即した環境改善を継続してまいります。

■ 家族支援・保護者交流の機会

保護者評価・職員自己評価の双方で改善の余地が示されたカテゴリです。土曜日イ

ベントや年3回の家族イベントなどを通じて参加の裾野を広げながら、保護者同士が自然に交流できる場の充実を図ってまいります。

■ 地域連携・外部との関係構築

保護者評価では直接認識される場面が少ない領域ですが、職員自己評価では評価のばらつきが大きく、職員間の取り組み状況の差が課題として浮かび上がりました。子ども食堂の運営・地域合同イベント・自立支援協議会参加等の取り組みを通じて、組織として地域連携の実態を積み上げてまいります。

■ 安全管理・マニュアル周知

保護者評価では高い信頼を得ている一方、職員自己評価では訓練実施やマニュアル周知に関し職員間のばらつきが見られました。年間計画に基づいた定期的な確認・訓練の徹底を継続してまいります。

これらの分析から、保護者の皆様には高いご満足をいただいている一方で、職員は支援の質をさらに高める余地を率直に認識していることが明らかになりました。この「もっと良くしたい」という意欲を原動力に、継続的な改善と向上を目指してまいります。

6. 今後の改善に向けた取り組み

今回の評価結果を真摯に受け止め、当事業所は以下の点に重点を置き、サービスの質のさらなる向上に努めてまいります。

1. 施設環境の継続的な改善

バリアフリー面の構造的な制約を踏まえながら、利用児童一人ひとりの実態に合わせた環境整備を継続してまいります。安全と快適性を最優先に、できる限りの改善策を検討・実行してまいります。

2. 家族支援・保護者交流の充実

土曜日活動・年3回の家族イベントを通じてご家族全員が参加しやすい機会をさらに充実させます。特に参加しにくい保護者の方にも届くよう、開催形式・周知方法の工夫を続けてまいります。

3. 地域連携の強化

運営後の拠点を利用した子ども食堂の運営・地域および幼稚園との合同イベント・令和8年7月からの自立支援協議会（運営委員会）参加を通じ、地域に開かれた事業所づくりをさらに進めてまいります。関係機関との連携を深め、お子様を地域全体で支える体制の構築を目指します。

4. 職員の専門性向上と情報共有の強化

法人全体での合同会議は回数こそ限られていますが、その機会を最大限に活用し、連携園職員の情報共有と共通認識の形成を継続してまいります。研修機会の確保と日々の支援記録・振り返りを通じて、職員全体の実践力の底上げを図ってまいります。

5. 第三者外部評価の実施に向けた取り組み

現時点では未実施の状況ですが、外部の客観的視点を取り入れた評価体制の整備を課題として引き続き取り組んでまいります。

当事業所は、「みやのだい SEEDS」をご利用いただくすべてのお子様と保護者の皆様が、安心して笑顔で毎日を過ごせるよう、職員一同、第三の居場所としての安心感の中からお子様自身が「自分を知る」ことができ、自己肯定感を育むことができるよう、より一層の努力を重ねてまいります。引き続き、皆様のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

公表日：2026 年 7 月 1 日

事業所名：多機能事業所 みやのだい SEEDS